

386

特 241

390

革新党
労働委員長 森 栄一 著

何故に齊藤隆夫君は懲罰に附せられたる乎

國民は正しく認識せよ！

2



* 0003538000 *

0003538-000

特 241-390

何故に齊藤隆夫君は懲罰に附せられたる乎

森栄一・著

森本耕

昭和15

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものである。

388

國民は正しく認識せよ！

何故に齊藤隆夫君は
懲罰に附せられたる乎

特 247

390

革新党
労働委員長

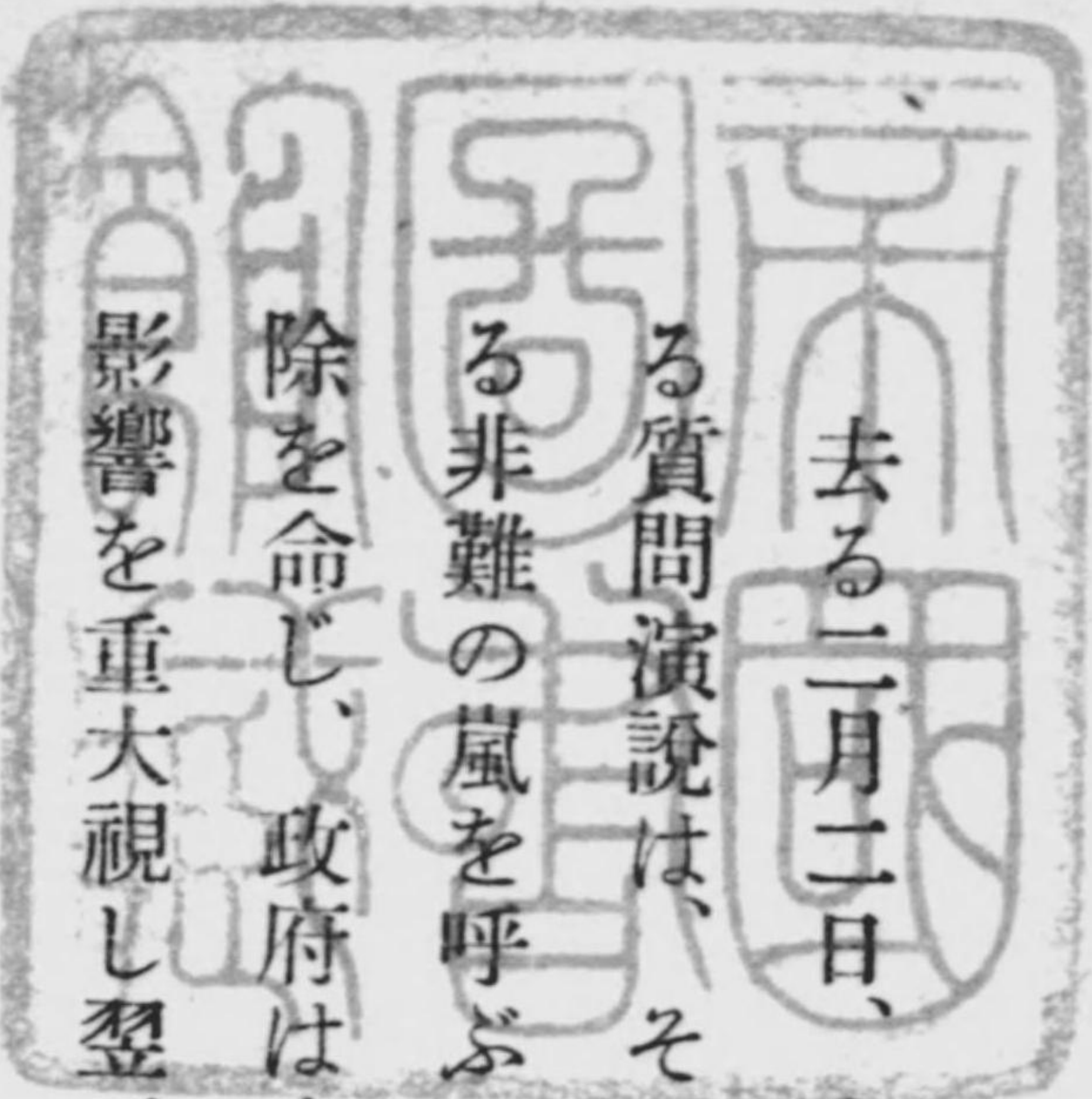
森

榮一著

390

特244
390

緒言



去る二月二日、衆議院本會議に於て齋藤隆夫君が民政黨を代表して行ひたる質問演説は、その論旨の不穩當なるため一大問題を惹起し、院内に囂々たる非難の嵐を呼ぶに至つた。小山議長は演説終了後、その速記の大部分に削除を命じ、政府はまた同部分の新聞記事掲載を差止めた。政府は此の演説の影響を重大視し翌三日の衆議院本會議の劈頭に於て首相・陸相・海相は交々起つて帝國不動の方針を再聲明し、齋藤君の演説に對する否定的態度を明かにした。これに次いで小山議長は齋藤君を懲罰に附するの旨を宣言するに至つた。

二
齋藤君の演説に對しては獨り民政黨所屬代議士のみが終始拍手を送りたるのみであつて、他の大多數の代議士は何れもその論旨の極めて不穩當にして其の内外に與ふる影響の重大性を認めたのであるが、一般國民は奈何せん演説内容の全貌に接し得ざるため、種々なる疑惑を生じ、中には發表されたる演説の一部分を讀んで、その全貌を推測し、同君が何故に懲罰に附されたるかその理解に苦しむ者も少くない。またかの自由主義者の一群は此の機會に乗じて齋藤君に對する一般の同情を喚起し、この問題を巧みに利用して其の誤れるイデオロギーを國民間に流布せんとする傾向がある。之れ銃後國民思想に大なる悪影響を與ふるものでなければならぬ。今や國民は協力一致、總力を擧げて聖戰目的の貫徹に向つて邁進しなければならぬ秋に當り、齋藤問題のため國民思想が聊かなりとも惑亂されることを憂ひ、吾人は世上一切

の浮説とデマを一掃する目的を以て茲に同問題の真相を語り、以て一般國民の賢察に訴へんとするものである。勿論齋藤君の演説の大部分はそのまゝ公表を許されざるを以て、その論旨の要點に就いて批判を加ふるの外なきを諒とせられんことを望む次第である。

目次

齋藤隆夫君の所論は民族的大理想を否定す……………一
齋藤隆夫君の所論は弱肉強食の侵略主義を主張す……………五
齋藤隆夫君の言説は一種の援蔣行爲である……………八
齋藤隆夫君の所論は皇軍將兵の勞苦を無にするものである……………二
齋藤隆夫君の所論は近眼的功利主義に迎合す……………三
齋藤隆夫君の演説に對する民政黨の立場……………六

齋藤隆夫君の所論は

民族的大理想を否定す

齋藤君の論旨の致命的誤謬は、大日本帝國の民族的大理想を根本的に否定したること之れである。

我が肇國の理想が「八紘一宇」に存することは、畏れ多くも神武天皇の詔勅「樞原に皇都を建つるの令」の中に宣はせらるゝ所であり、また日本國民の傳統的信念である。而して「東洋の平和」を確立すること、最近の言葉で云へば、東亞新秩序の建設は此の八紘一宇の大理想を顯現する第一段階に外ならぬ。日清戦争、日露戦争、今次の支那事變等凡て「東洋の平和」のため

に戦はれたる民族的聖戦なることは一點論議の餘地はない。畏れ多くも明治天皇は日清戦争の宣戦の詔勅の中に於て「東洋全局の平和を維持せんと欲し」云々と仰せられ、更に日露戦争の宣戦の詔勅の中に於て「東洋の治安を永遠に維持し」云々と仰せられ、更に支那事變勃發の直後、今上陛下は、第七十二議會の開院式に賜りたる勅語の中に於て左の如く仰せられた次第である。

「帝國と中華民國との提携協力に依り東亞の安定を確保し以て共榮の實を擧ぐるは是れ朕が夙夜軫念措かざる所なり。中華民國深く帝國の眞意を解せず、濫に事を構へ遂に今次の事態を見るに至る。朕之を憾とす。今や朕が軍人は百艱を排して其の忠勇を致しつゝあり。是れ一に中華民國の反省を促し、速に東亞の平和を確立せんとするに外ならず。朕は帝國臣民が今日の時局に鑑

み、忠誠公に奉じ、和協心を一にし、賛襄以て所期の目的を達成せんことを望む」

然るに齋藤隆夫君の所論は、「八紘一字」「東洋永遠の平和」の民族的理想を明確に否定し、之を以て空想又は偽善なりとする認識に立つて居る。而して彼は、日清戦争をやつても日露戦争をやつても、東洋永遠の平和は實現されないではないかと述べて居る。もとより東洋平和を確立し、日滿支三國を以て構成する確固たる新東亞體制を確立することは、決して一朝一夕の業ではない。所謂長期建設の大業であつて、今後と雖も幾多の困難と障碍とを突破すべき不退轉の國民的努力を必要とするは論を俟たぬ。然るに齋藤君は日露日露兩戦役の犠牲を拂つても、東洋永遠の平和は確立されざるの故を以て、畏れ多くも詔勅に明示されたる此の民族的理想を否定するが如きは、實に許

すべからざる妄断なりと云はなければならぬ。

四

齋藤君の所論を以てすれば、今次の支那事變も全く空想を追ふ無意義なる戦争であつて、斯くの如き戦争の目的を國民は理解せずと述べて居るが、既に聖断を仰いで確定されたる帝國不動の方針を國民が理解せずとは何事であるか。勿論、東亞新秩序の建設は尙ほ黎明期にあり、就中更生支那の建設は漸く第一步を踏み出さんとする段階にあるが故に、その具體的過程に關しては未だ公表されざるものあり、國民が之れを知らんと欲するのは當然のことであるけれども、その根本方針に關しては既に幾度か政府に依つて聲明され、國民亦これを承服して居る。然るに國民が全く譯の分らない戦争のため甚大なる犠牲を拂ふが如き論議を國民注視の的たる議政壇上に於て爲すことは、國民指導の任に當る代議士として實に不謹慎極まるものと云はなければならぬ。

ばならぬ。

齋藤隆夫君の所論は

弱肉強食の侵略主義を主張す

斯くの如く我が民族的理想を否定し、聖戦の本義を没却せる齋藤君の演説は如何なる理論的根據に立つものであるか、之を同君の演説を通じて検討するに、國家間の競争の眞髓は凡て優勝劣敗、弱肉強食であり、強者が弱者を征服し侵略することなりと彼は述べて居る。即ち最も素朴なる進化論的生存競争説が其の立論の根柢となつてゐる。従つて同君の戦争觀に依れば、一切の戦争に道義なく、正邪曲直なく、唯だ力の闘争あるのみである。彼はその

五

例證としていふ、歐米基督教國は内に於ては十字架の前に跪くけれども、ひとたび對外問題となると、全く基督の教訓を忘れて、弱肉強食の修羅道に進ずるではないかと。

白人諸國の對外發展政策が弱肉強食の侵略主義に基き、全く道義を没却せることは歴史に徴して明かである。然れども白人諸國の對外發展政策と日本の對外發展政策と同質であり、また白人諸國の行ふ戦争と日本の行ふ戦争とが本質に於て同一なりと斷定するは日本の民族的性格を冒瀆するの甚しいものでなければならぬ。前首相平沼騏一郎氏は第七十四議會に於て、皇道外交の本質を説明し、各民族をして各々その所を得しむるにありと喝破した。誠に當を得た説明として吾人の感服した所であるが、我が大陸政策の本質は、白人帝國主義に倣つて、滿洲や支那を征服し侵略するのでは斷じてな

く、却つて反對に滿洲民族や支那民族をして各々その所を得しむるに在る。即ち日滿支三國が有機的協力體を完成し、政治的に經濟的に國防的に文化的に一大自主的ブロックを確立し、以て亞細亞興隆の礎石を築かんとするものである。

今次の支那事變は、蔣介石を中心とする抗日支那が我が道義的方針を理解せず、却つて之を曲解して、我方に挑戦したことに端を發した。東亞の二大民族が相戦ふことは近衛前首相の言へるが如く誠に東亞の悲劇であるけれども、支那國民の中には汪精衛、王克敏、梁鴻志の諸氏の如き達識具眼の士もあつて、我が眞意を理解し、身を挺して日支協力を圖らんとする態度に出で、今や力強き新東亞建設の第一歩を踏み出されんとしたるは誠に同慶の至りと云はねばならぬ。然るに此の重大時機に當り、戦争の本質を侵略主義な

りと斷じ、支那に對して弱肉強食の征服主義を以て臨むべしと主張し、然らざれば國民的犠牲は無益なりと論ずるが如きは、論旨の不當なるは勿論、政治家として無思慮無責任の態度と云はざるを得ない。

齋藤隆夫君の言説は

一種の援蔣行爲である

日本が崇高なる道義的基調に立つて行ひつゝある大陸政策を目して侵略主義なりと宣傳するのは、第一に蔣介石を中心とする重慶政權、次に援蔣工作に妄動を續けつゝある英・米・佛・蘇の諸國家である。蔣介石の迷言は彼の没落の悲鳴として聞くべきも、彼等援蔣國家は從來行ひ來たれる自己の侵略

主義は棚に上げて、顧みて他を云ふの非を敢てしつゝある。然し吾人は敢て云ふ、今後の事實を見よと。日本は今後に於ける獻身的努力に依り、必ずや道義に立つ東亞新秩序を建設し、世界歴史の上に光輝ある金字塔を立てるであらうことを確信して疑はない。

國際正義も共存共榮も白人の歴史には無かつた。彼等は口に之を唱へても、それは政略であり、偽善であつた。然るに今や日本帝國は嘗つて白人の歴史に無かりしものを實現せんとするのだ。對外政策に正義があり共存共榮があることを事實を以て世界に示さんとするのだ。之れ太陽の如く仁愛無邊なる大御心に基くものであり、また皇道に徹したる日本國民の鐵の如き決意である。

然るに齋藤君の如く日本國民の内部より、しかも國政審議の壇上より、聖

戦の本義を冒瀆する如き不穩當極まる所論を發表するに至つては、たとひ齋藤君は意識しないと雖も、結果に於て、蔣政權の立場を有利ならしめ、援蔣第三國の逆宣傳に油を注ぐものである。齋藤君の演説を全部聽取せる外國通信員は逸早く之を海外に打電し、恐らく重慶政府も援蔣國家も鬼の首を取つた如く狂喜したことであらう。特に蔣介石は從來日本を強暴なる侵略國家なりと宣傳することに依つて國民の抗日意識を昂揚したのであるから、齋藤君の演説は絶好の材料として抗戰熱の煽揚に之を利用することは明かである。既に米國の二三の新聞は齋藤問題を大々的に取扱ひ、反日的毒舌を弄しつゝある有様である。誠に遺憾千萬なことである。この點のみに關しても齋藤君の言責また重大と云はなければならぬ。

齋藤隆夫君の所論は

皇軍將兵の勞苦を無にするものである

我國は日清戰爭以來、東洋平和確立の聖戰のために幾十萬の皇軍將兵を犠牲にして居る。今次事變開始以來既に十萬の皇軍將兵は戰歿して居る。彼等が踴躍して征途に就き、莞爾として大陸に骨を埋めたのは抑々何んの故であるか。吾人は戰地に赴き、皇軍將兵が言語に絶する苦闘を重ねつゝ、「東洋平和のためならば、何んの命が惜しからう」といふ歌を愛誦しつゝあるを到る處聞いた。彼等は崇高なる民族理想に感激しつゝ喜んで死地に出入し、不幸敵彈に仆れても毫も悔ないのである。海行かば水づく屍、山行かば草むす

屍、皇軍將兵は一切の功利主義を蟬脱して、純乎たる民族的理想に奉仕して居るのだ。然るに齋藤君の如く、今次の戦争に道義なく、理想なく、西洋流の侵略戦争と同じく一個の修羅道なりとせば、正さしく皇軍將兵の勞苦を無にするものではないか。而してまた東洋平和の確立は空想なりと云ふが如き、皇軍將兵の辛苦を無意義なりとするものではないか。若し齋藤君の所論が國民に流布されたならば、既に神に祀られたる幾十萬の英靈は如何にして安眠することが出来やうか。

また戦歿將士の遺家族は勿論のこと、聖戰目的の貫徹に向つて献身的奉仕を爲しつゝある銃後國民に對しても、齋藤君の所論の如きは實に不届至極と云はねばならぬ。聖戰の本義を理解し、聖戰目的貫徹のために、種々なる論議を爲すことは、それがたとひ矯激に流るゝ場合ありとするも、その動機に

於て諒とすべきものがあるけれども、齋藤君の如く聖戰の本義を否定する所、説は、銃後國民思想を惑亂し、國家を敗戦に導くものと斷定されても辯解の餘地は無いのである。

齋藤隆夫君の所論は

近眼的功利主義に迎合す

世上一部には、今次の戦争は日本にとつて何等得る所はなく、徒らに犠牲ばかり拂ふ所の無駄な戦争であるかの如く云ふ者もあるが、彼等こそ近眼的功利主義に墮したものであつて、支那問題に對する認識不足も甚しいと云はねばならぬ。而して齋藤君の所論は最も大膽に此の近眼的功利主義を代表し

たものである。

抑々支那の領土の一部を取り、賠償金を取つて（賠償金を取ることは事實上不可能である）それに依つて日本が利益するか如く考へるのは根本的に誤謬である。若し日本が侵略行爲に出たとすれば、支那國民の怨恨は深く固定し、蔣政權の抗日勢力は益々擴大強化し、日支兩國の關係は永久に抗爭を繼續するに至るであらう。斯くの如き狀勢を展開することは日本に取り百害あつて一利なき結果を生ずることは火を睹るより明かである。最も侵略主義に徹底せる英國の如きも、近來は領土侵略主義を捨て、あまり目に立たない金融産業上の利益獲得に轉向して居る状態である。第十九世紀式の西洋的領土侵略主義を以て民族意識の發達した現代の支那に臨めといふが如きは、その沒理想は云はずもがな、侵略主義としても最も時代後れの舊思想である。

吾人は我が東亞國策に於て、道義と利益とが完全に一致するものなることを確信する。親日的である限り支那の主權を認め、支那の民族意識を尊重し、支那自體の政治力をして支那の治安を維持せしめ（勿論これには日本の援助を必要とするが）兩國の間に緊密なる經濟合作を行ひ、以て有無相通ずるの互助的經濟體制を確立することが、日本にとつても支那にとつても最も利益ある方法である。日本は斯くして始めて國內に求め得ざる資源を平和的に支那より求め得るのである。支那も亦必要とする物資を最も經濟的に日本より求め得るのである。共存共榮の原理は如實に行はれるのである。之に反して、日支が永久に抗爭を續けるならば、結局、兩者は共倒れとなり、東洋の天地は全く白人帝國主義の跳梁跋扈に委せらるゝであらう。かの領土侵略主義の如きは最も簡單であつて俗耳に入り易いけれども、事實は却つて國家

百年の大計を誤るものと云はなければならぬ。

齋藤君は明確に共存共榮の原理を否定したのである。若し齋藤君の言説を實行するとせば、支那に於て斷じて新中央政權は誕生しないであらう。而して日本と結ばんとする多くの親日知日の人士をして悉く抗日に走らしめ蔣政權の基礎は愈々固まるであらう。その結果は支那事變處理をして永久に不可能ならしめ、國運に不測の禍害を招くものである。齋藤君は帝國不動の方針を以て國家百年の大計を誤ると述べたが、齋藤君の所説こそ國家百年の大計を誤る亡國思想なりと斷定するに憚らぬ。しかも最も俗耳に入り易い淺薄なる功利主義の議論を叫んで帝國不動の方針に疑惑を抱かしむる如きは、國民思想に及ぼす影響の甚だ憂慮すべきものがある。

永く白人勢力のために其の大部分を征服され侵略され搾取されたる亞細亞

を興隆すること、しかも日本民族が中心指導力となつて此の世界史的大業を遂行すること、こゝに限りなき民族的感激の源泉がある。この光輝ある大業を完遂することは亞細亞諸民族の解放を意味すると共に我が國運の一大躍進であり、肇國大理想の顯現を意味する。この劃期的時運に際し、國民は一大決意の下に國內體制の根本的刷新と強化を圖り、民族の總力を擧げて此の歴史的大業の遂行に協力すべき運命にある。而して此の民族的大前進を阻害せんとするものに對しては斷乎之れを克服して邁進するの覺悟がなければならぬ。

現下の時局に於て吾人の最も留意すべきものは國民思想の鋼鐵の如き健康性である。國民思想が民族的理想に對して搖ぎなき磐石の信念を堅持することが絶對的肝要である。従つて國民思想の健康性を聊かなりとも毒するものに對しては容赦なき肅正作用を敢行すべきが當然である。敵は外にもあれば

内にもある。吾人は今回の齋藤君の演説が内外に及ぼす影響の頗る憂慮すべきものあるを思ひ、就中國民思想の健康性を毒するの甚しきを認め、齋藤君の懲罰に附するの至當なるを信ずるものである。

齋藤君の演説に對する民政黨の立場

齋藤隆夫君の演説に關聯して、民政黨の立場はどうなるか、一考に値する問題である。齋藤君が民政黨を代表して演説したることは云ふまでもない。而して民政黨所屬代議士諸君は齋藤君の演説に對して終始拍手を送りたることも事實である。若し齋藤君が懲罰委員會に依つて何等かの處分を受けたるとき民政黨は如何なる措置に出でんとするか。或はあの演説に對する責任は齋藤個人の負ふべきものとして、民政黨は知らん顔の半兵衛を決め込むつも

りであるか。政治道徳上より之を見れば、その責任は齋藤君個人のみならず民政黨自身が負ふべきものと解するが妥當である。演説の出來が良ければ黨代表として取り扱ひ、演説が失態を演ずれば、黨は之れに關知せずといふが如き鵠的態度を以て押し通せるものではあるまい。

吾人の奇怪に感ずることは、齋藤君が不穩當なる言辭を用ひたるとき、何故に幹部は之れに注意を與へなかつたか。齋藤君の演説が後に至つて重大なる結果を生ずるといふ認識があるならば、議長を通じて同君の演説を制止することも出來た筈である。幹部は適切なる何等の措置を講ぜず、同君の演説を最後まで放任し、しかも所屬代議士は盛んなる拍手を送つてゐる仕末である。演説の終了後、俄然問題となり、院内に非難の風雲捲き起るや、民政黨幹事長は各派を訪問して「あれは齋藤君一個の意見であつて黨の意見と相去

る遠いものがあるから、なるべく穩便に願ひたい」と諒解を求めたけれども、吾人はこの重大責任を齋藤君個人のみが負ふべきものと解することに到底同意し難きものである。

齋藤君の舌禍問題は實に衆議院の名譽に關する問題である。戦時下の衆議院に於て斯くの如き不逞なる言論の現はれたることは、大局より見れば衆議院全體の責任と云へないこともない。民政黨は衆議院内の第一黨である。而して民政黨は黨の代表演説者として齋藤君を演壇に送つたのである。民政黨は衆議院の名譽のために、また黨自體の名譽のために、この問題より超然たることを許されないのである。若し民政黨が飽くまでも責任回避の態度に出づる意志ならば、公黨の面目は全く泥土に委すものと斷じなければならぬ。吾人は敢て民政黨の善處を望む次第である。

昭和十五年二月十五日印刷
昭和十五年二月十八日發行

【定價金拾錢】

著者 森 榮 一

東京市澁谷區下通二ノ一八

發行者 森 本 耕

東京市麴町區飯田町一ノ二三

印刷者 兼 平 小 治

7
90